



会長 芦田 昭 充

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会

新年あけましておめでとうございます

潮 騒

第 41 号
平成28年
1月 1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目五
海事センタービル
電話 〇三・三三三・四〇六六二
FAX 〇三・三三三・四〇六八二

皆さまにおかれましては、さわやかな新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は、賛助会員、協賛会員ならびに関係者の皆さまには、当会の事業運営に多大なご支援ご協力を賜り、おかげさまでましたことを、あらためて厚く御礼申し上げます。

昨年の戦没・殉職船員追悼式は、終戦から70年、第45回の節目の記念式典として、戦没・殉職船員の御霊の鎮魂とご遺族の長年の労苦に応えるため、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、全国から多くの皆さまが参列されました。ご遺族はじめ関係者の皆さまには心に残る追悼式であったものと存じます。

戦没船員6万余人もの尊い犠牲を払った先の大戦が終結してから年月の経過とともに、ご遺族は兄弟や子供、孫へと世代が移り、あの悲惨な戦争の体験を次世代へ語り継ぐ方々の減少により、その記憶の風化が懸念されるなか、ややもすればあの悲惨な戦争によって祖国のために犠牲

となられた戦没船員と、戦後のわが国の復興を支えてきた海運・水産業に従事し、不幸にして海難や労働災害により殉職された船員への思いが薄れようとしています。

志半ばで、先の大戦で犠牲となられた戦没船員と、海難等で殉職された船員の慰霊顕彰と遺族援護ならびに、海洋立国の精神を高揚し、海事思想の普及と海洋永遠の平和を希求することとであります。私たちは、二度とあのような悲惨な戦争を繰り返さな

いために、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰事業の重要性を広く国民に伝えなければなりません。

戦没・殉職船員への思いが薄れるなか、賛助・協賛会員の減少により、当会の事業運営は厳しさを増しております。関係団体や皆さまのご理解とご協力を賜りながら、戦没・殉職船員への思いを絶やすことなく、事業を続ける所存でございます。

本年も旧年にならぬご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成27年8月15日、強烈な日差しが照りつける観音崎公園「戦没船員の碑」に、芦田昭充会長はじめご遺族、前職および現職役員ならびに評議員、海事関係者ら約40人が参列し、終戦記念日献花式が行われた。式典は例年どおり日本武道館での全国戦没者追悼式の進行に合わせて執り行われた。慰霊碑に献花し黙とうを捧げ、戦没船員の御霊の鎮魂と安らかなることを祈るとともに海洋永久の平和を誓った。

終戦記念日献花式



お知らせ

第46回戦没・殉職船員追悼式

日時 平成28年5月12日(木)

午前11時開式(予定)

会場 横須賀市観音崎公園

「戦没船員の碑」にて

第42回戦時徴用船の最期

大久保一郎遺作展

会場 平成28年7月15日()

7月21日

会場 広島県民文化センター

第2・3展示室(広島市)



絵画を熱心に見入る、来場者の皆さん

多くの来場者を迎えるため、顕彰会のホームページや広報誌「潮駭」での周知と海事関係団体の広報誌等

1000人が来場

また今回も、大久保一郎画伯が描いた戦没船と船員の油彩画37点のほか、油彩画のモノクロ写真12点(原画は現存しない)を展示するとともに、DVD「NHK特集・太平洋シレーン作戦」「第45回戦没・殉職船員追悼式」を放映した。

横浜での戦時徴用船遭難の記録画展は、平成24年横浜みなと博物館で開催以来4回目の開催となった。今回の記録画展は、これまでと同

様に貴重な記録画を通して、ご遺族はじめ多くの市民の皆様が戦時徴用船乗組員の悲惨な実相をお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただき、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、顕彰会が全国を巡回して開催している。これまで、28カ所・41回目の開催となった。

昨年8月18日から23日まで、横浜の神奈川県民ホールギャラリーで、第41回「戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展」を開催した。横浜市や近隣都県はもとより、遠方からもご遺族や市民、約1000人が来場し、壮絶悲惨な戦没船と船員の記録画37点と絵画のモノクロ写真12点を熱心に見入っていた。記録画展会期中、東京海洋大学海事普及会の学生の皆さん(6人)にスタッフとしてお手伝いをいただいた。

戦時徴用船遭難の記録画展 横浜で開催

戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展



記録画展の会場となった神奈川県民ホール

に開催案内を掲載していただくとともに、ポスター、リーフレットを各行政機関、海事関係団体、船社、マスコミ等に配布し事前に広報を行った。

今回は横浜市教育委員会の協力をいただき、横浜市立の中・高等学校の学校ポストにリーフレット等を配布し、教員、生徒への広報を行った。また、横浜市内の区役所、図書館、横浜市観光協会、博物館等にポスターの掲示、リーフレットの配布をお願いした。

昨年、終戦70年の節目でもあり新聞・テレビ等で、「第45回戦没・殉職船員追悼式」や「戦時徴用船遭難の記録画展」の開催が紹介されたこともあり、連日の猛暑にもかかわらず、ご遺族をはじめ海事関係者、遠方から、約1000人が来場した。



大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵書の原画を前に、1956(昭和31)年67歳。

大久保一郎画伯 (1889—1976)

- 明治22年 大阪市富島町(現在の西区川口)で生まれる。
- 大正15年 大阪商船(現株商船三井)の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。
- 昭和17年 大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。
- 昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86歳。
- 昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

記録画から受けた感動・感想

来場者のうち400人の方々からアンケートとともに記録画から受けた感想が寄せられた。

その中から、来場の動機と感想の一部を紹介する。

10代の驚き

●女性（八王子市）テレビを見て

私は、テレビで放送されたこの絵画展の特集を見るまで、戦時徴用船というものの存在を知りませんでした。

展示されていた絵はどれも臨場感があり、たった一回の攻撃を受けて巨大な船が海の底へと沈んでいく様

子を見ている気分になりました。

私はぶらじる丸の絵が特に印象に残っています。沈みゆく船から逃げずに共に沈んでいく船長の後ろ姿から死への覚悟が感じられて、私も船長と共に息を止めてしまいました。

●男性 インターネットで

日本が戦前に世界第三位の商船隊を保有しており、その商船が終戦時に1/20まで減少していたことはあまり知られていないし、自分自身もつい最近までそれを知ることがなかった。

だからこそ、こういった企画展に於いて当時の現実を知ることができるのは、とてもいいことだと感じた。海上輸送の途絶により、日常生活すら立ち行かなくなった事実や、商船の最期を伝えるこの企画を、ぜひ続けてほしい。

●女性 県民ホールに来て

戦争や戦没船員の事を知らなかったのですが、知ることができて良かったです。絵で当時のことが伝わってきました。ありがとうございます。

20代の学び

●男性 NHK・東京新聞を見て

太平洋戦争で、制海権が奪われた中で、輸送船が多数沈められ、船員にも犠牲が多く出たことは、知識と



戦没船員ご遺族の山岸信一さん（左から2人目）ご家族の皆さん

しては知っていたが、沈みゆく様子を臨場感溢れる描写で描かれているのは戦争の悲惨さが伝わってくるようだった。そして結果論でしかないが、もっとシーレーンを重視していれば少しは犠牲は少なくなったのではないかと考えた。

●女性（藤沢市）NHKを見て

2年ほど前に、NHKのドキュメント番組を見て、この展示会に是非来たいと思っておりました。全国を回っているとのことだったのでチャンス待ち、横浜で開催する情報を手に入れ今回参りました。

2年前の番組を見た際、衝撃を受けました。ほぼ丸腰で物資を運ばされる徴用船。その理不尽さにやるせ

なさを感じました。自分を守る術を持たない民間人が次々と殺されるその事実信じられない気持ちで一杯になり、戦争を知らない世代だからといって戦争に向き合わない理由にはならないのだと強く感じました。戦争を体験していないからこそ知るべきであると思います。今回展示会に来てその思いはさらに深まりました。

●男性 NHKを見て

2年前のNHKの番組を観て来場。今回会場は氷川丸の前であり、同世代で生き残った同船をみてから、改めて絵画を拝見した。

戦時のシーレーン維持に努力された船員の苦勞と制海権を失った中で無理な作戦を行ったことへの疑念を感じた。

●女性 テレビを見て

たまたまテレビでこの遺作展が紹介されており、行ってみようと思っ

て今日来ました。地上戦のことはテレビで見たり、祖父から聞いていたが海上でのことはあまり知らなかったのが今回DVDや絵、資料を見てこんなことがあったのかと思いました。見ていてやっぱり戦争はいけないこと、何も生まれないと感じました。自分たちのエゴがなければこんなことは起きなかつたのに。考えればわかる事なのに、起こしてから気づいたということが悲しいし、愚かだと思いました。



神奈川県立横浜清陵総合高等学校の皆さん

30代の印象

●女性 友人・知人・家族に聞いて
なかなか知ることがない戦時徴用船のことについて分かりやすく知ることができた。

メディア等で話題になるのは、戦った人がほとんどである。しかし、亡くなった方は、戦った人だけではないことを、みんな知るべきだと思った。

私は小学校の教員をしているので、少しでも子どもたちへと伝えていこうと思う。ありがとうございますました。

●男性 横浜駅観光案内所で見て
たまたま駅でポスターを見て来ることが出来ました。戦争の船の絵画は見たことはあったのですが、こういった展示会は初めてでした。思った以上、詳細に描かれていてびっく



水本健介さん、澤理ちゃん（4歳）
諒洋くん（2歳）

りしました。船員の方の思いが伝わってくる感じがしました。客と引き換えに海へ飛び込む船員の方の絵はすごいと思いました。

●女性 東京新聞を見て
映像資料や写真とは、また違った絵画の訴えかけてくるものに胸の詰まる思いがしました。見る者に伝えたいことを構図に込めることが出来るからでしょうか。

戦争になればやはり「補給」や「輸送」がまず先に攻撃されること。漂流中の遭難者や病院船でさえも攻撃されたという事実。このような時代が二度と繰り返されてはならないと強く思いました。

●男性 ホームページを見て
もともと戦記に興味があり、海軍等は好きだったので太平洋戦争における海上護衛、戦時徴用船の事を知ったのは最近になってからです。輸送というものは戦争の裏方であり、地味な存在であるとかつての私も思っており、日本が誇った空母機動部隊に比べれば、影のうすいものでした。しかし、日本の生命を支えていたのは、まさに裏方で奮闘した日本商船隊だったのです。

今年の神戸開催に残念ながら行けず、今年こそはと思い、見に来ることができました。

明日、観音崎にも寄らせて頂き、戦没船員6万人の皆さんの冥福をお祈りしたく思います。



戦没船員ご遺族の首藤クニさん

40代の感想

●女性 家族から聞いて

この様な絵画が残っているということに、感動したと同時に、この様な悲惨な出来事は絶対にくり返してはいけないと切に思った。

●男性 神奈川新聞を見て
NHKのE.T.V特集で拝見していましたが、大久保先生の油絵を実際に見させていただき、その迫力に圧倒されました。わずか1・2門の高射砲が大量の米軍機に向けて発射する様子や、サメに喰われそうになる船員の姿から、絶望的な状況にあったことがうかがわれました。いかなる理

由であれ、戦争はいけないことを改めて感じます。また、ぶえのすあいれす丸は病院船だったそうなのに攻撃されました。会場近くには氷川丸が保存されていますが、いつ、どこで攻撃されるかわからない恐怖にさいなまれていたことを実際に氷川丸があるからこそ追体験することが出来ます。もつと多くの人に知ってほしいと思いました。

●男性 友人・知人・家族に聞いて
あらためて平和の事、戦争の事を深く考える貴重な時間となりました。犠牲になられた方々の事を思うと二度と戦争をしてはならず、日本だからこそのできる平和外交をしつかり行わなくてはいけないと思えます。軍事以外の方法で他の国々と渡り合うやり方が必ずあると考えます。ビデオの中の言葉「共存共栄」が大事だと思います。今日はありがとうございました。



水野正洋さんご夫婦。軍人のお父様が護国丸に乗船して戦死された

50代の想い

●女性 日本テレビを見て

徴用船員の方々の母国や国民を思う尊さに胸が詰まりました。軍艦に比べ庇護が殆んど得られなかったと聞いています。計り知れない犠牲を出した戦争は二度と繰り返してはならないと強く思いました。

お亡くなりになられた皆様に敬意の念で一杯で深く頭が下がります。

●男性 知人から聞いて

先の大戦に関しては、広島・長崎の原爆、特攻隊、学徒出陣、沖縄戦などで多くの市民、徴兵された軍人・軍属らが命を落としたことは誰もが知っている。一方で国家総動員法の下、多数の民間船が戦時徴用され、多くの民間船員が犠牲になったことはあまり知られてない。



宮崎光二さん（右から3人目）と仲間の皆さん

絵画展を通じ、大戦での「埋もれた悲劇」を語り伝えていくことは、歴史を正しく理解し、恒久平和を願う上で、極めて有意義だと思う。

●女性 特集番組の担当者

映像や写真では見ていましたが実際の油絵を見ると大久保画伯の筆遣いが伝わってきて、よりリアルに感じるものが出来ました。自分が絵を描いた新造船が後に攻撃され沈没する様子を描くことになった時の気持ちはいかばかりだったでしょうか。しかもそれを公にすることが出来ないなんて。私の祖母もかつて横浜港湾内で荷物を輸送する小さな船を13隻所有していました。全て徴用され、その消息は知れません。子供のころから漠然と話を聞いていたが、今回戦後70年を機会にいろいろな事実を知ることが出来て良かったです。願わくば各絵画の説明パネルにも地図を付けた方が分かりやすいかと思いました。（ルートと沈没地点など）また展示会期ですが、終戦記念日より前から行い、週末を2回入れてもらえらるともっと来やすいかもしれません。

●男性 NHKを見て

昨年のNHKの番組を見て、昨年の遺作展を見に行きました（神戸）。しかし番組の印象を確かめに行ったようになり再度、作品に描かれている戦時の輸送活動の事実を確かめに今回来ました。

あまりにも厳しい事実の連続に言葉がありません。実は、今回横浜開港とのことで、横須賀の観音崎にある「戦没船員の碑」に立ち寄ってきました。多くの命を呑みこんだ南に向けての開放的な、しかし清浄さをたたえた見晴らしのよい広場でした。

願わくば、もうこのような施設が増えないようであってほしいと感じています。

60代の憤り

●男性 東京新聞を見て

今年になって初めて、太平洋戦争において船舶の甚大な被害とおびただしい方々の犠牲があったことを知り、また、この遺作展の開かれることを知り来場しました。

顕彰会の尽力に感謝します。昭和12年から当時の船舶の動向を後世に残すことは、大切なことと考えます。私の父は昭和14年に宇品から大陸へ渡り胸を患って病院船で同年11月に帰国しましたが、その時お世話になった船、乗員の方、看護の方など調べてもわかりません。もし、顕彰会の資料の中に関連するものがあれば連絡いただきたいと存じます。

私事は別にしても、戦争がいかに悲惨か、かつ無残であるか。船舶の消失を通じても痛感します。貴会の継続が力強いものであることを願います。



戦没船員ご遺族の藤原孝士さんご夫婦

●女性 友人・知人・家族に聞いて

戦後70年に因み、様々な事実が公開されていますが、まだまだ知らないことが多いと気づかされました。迫力ある絵画により当時の緊迫した状況が伝わってきました。

地名の多い船舶名、船長や乗組員の姿、沈みゆく船の姿。絵に描かれていない激しい水音、轟音、煙の臭い、人々の叫び声までが伝わってまいりました。

対馬丸のように、多くの子供たちが亡くなった船や、医薬品食糧など、直接戦闘にかかわらない物資を運んでいて撃沈した船。亡くなった民間人の多い船の話と共に、いずれも戦争の犠牲者と思われ知らされました。いかなる戦争も「人を守らない」（国民の生命財産を守る戦いなどありえない）と痛感します。よい展示をありがとうございます。



岡崎久さん 東京高等商船卒業後、海軍に
応召。戦後復員輸送に従事する

●男性 ホームページを見て

私は元船員（機関士）であった。観音崎公園の追悼式にも会社の代表として何回か参列したことがありますが、私のような船乗りでもあまり、戦時中の船員の実態をその時までほとんど知らずにいました。戦時中だから人命や船の安全がおろそかにされてもいいなんて、そんなものだったのでしょうか。現国際条約SOLAは厳しいものなのですが。海運業界に携わる者として人命と船の安全に心を砕く今の船員は戦前の船員の心意気を引継いでいます。貴重な船員の生命と船舶を多大に失ったことに本当にもつたいないというか残念に思います。日本の海運界が戦後復活したことは、残った人たちの苦勞と努力のたまものであったと、いままさらながら感謝しています。

●男性 友人・知人・家族に聞いて

大変興味があった、本日映画の「氷川丸ものがたり」を見た後ここに来ました。氷川丸も同じように戦争の渦に翻弄された本船であり、展示されている本船たちと違って何とか帰国できた幸運な本船です。時の商船は無防備で敵の攻撃であり、いかに当時の軍の勝手な行動が日本の海運と人命を破滅に追いやったまったく無責任な行動に、海運業に40年以上かかわってきたがやはりこれからのこのような争いに巻き込まれないように正しい方向で政治を行うべきと思う。

●女性 NHKを見て

伊豆からやってきました。テレビでニュースを聞き、今まで忘れなかったということ、やはり気になっていたからでしょうか。昭和20年生まれたの私ですが、先達あつての私達の存在です。戦争しても何も良いこ



齋藤清伍さん（顕彰会元常務理事）
とお孫さんの佐々木愛奈ちゃん

70代の怒り

●男性 東京新聞を見て

とは無い。悪だと思いません。戦争に行つて戦つて来た方々が言っている言葉です。重みがあります。孫達が兵士とならないよう平和な日本であつて欲しいと祈るばかりです。

松竹映画「二十四の瞳」（1954年）では、主人公大石先生の夫（瀬戸内海遊覧船の機関士）が徴用されて戦死してしまふ。この物語（映画）を見てから、民間の海員がどれほど戦場に駆り出されたのかを知りたいと考えていた。観音崎の殉職碑を訪れて銘文を読んだとき、その戦死率が40%（この数字は記憶が定かでない）で兵士の戦死率を上回ることを知つて驚いた。

今回の展覧会があることは新聞記事で知り、ぜひとも見たいと思つていた。会場に設定されたDVDによつて、アメリカとの戦争（太平洋戦争）におけるシーレーンの戦略的 중요さがよく理解できた。

●男性 テレビを見て

私の父は昭和20年6月14日、東支那海で兵を輸送中戦死しました。船の機関士でした。3回漂流し4回目に戦死しました。国から送られてきた骨箱には、紙切れに戦死の印刷がしてあつただけです。絵画をみても



DVDに見入る来場者の皆さん

●女性 新聞を見て

私は太平洋戦争開戦の当日生まれました。幼い頃は敗戦後の日本しか知らず育ちました。当時10代後半の若者たちは徴兵され亡くなられた方の身内・近所での葬儀は覚えていません。

船に乗つていた方々の2人に1人は亡くなったとの事、さぞ無念であつた事と思う。70年を経た今、当時と軍備も考えられない様な進歩、人対人ではなくなつて来ている事を思います。

日本もなかなか難しい時代に入つてきています。ビデオで開戦のきっかけが良く解りました。資源の無い日本は、外交に力を入れ、再びあやまちを起こさない様にと思っています。戦争は百害あつて一利無しです。



戦没船員ご遺族の今田小夜子さん
(左)と後藤美津子さん(右)姉妹

●女性 友人・知人・家族に聞いて

白幡小学校1年生の教室で開戦を知りました。脳裏に焼き付いていました。12月9日明日は誕生日で浮かれていた気持ちが縮みました。疎開地で横浜大空襲の真っ赤な空を見て身体が震えました。貴重な資料を見せて頂き、今、日本の70年の平和を宝物のように思います。国がどこに向かうかその舵を取るのはいずれか、憲法第9条を誇らしく掲げて、一人ひとりが自分の事として不戦を生きたいものです。

●女性 テレビを見て

先の戦争が何の為、誰の為の戦争であったか。これだけ多大な犠牲者、損失を出した戦争が良いはずがない。40年たった後に公開された大久保画伯の作品が一人でも多くの人に見てほしいと思いました。平和な今の時代に感謝しつつ二度

と侵略戦争を起こしてはならないと思いました。子供たちに平和をそして世界の平和をのこしてあげたいですね。

80代の嘆き

●男性(横浜市) 顕彰会の案内で

昨年の神戸市展示会で始めて観せていただきました。同じ内容のことですが、あらためて印象的な光景を見たような気がします。

改めて戦争の悲惨、無慈悲を感じましたが300万余りの戦死者(父)と見做されがちですが、本人、家族にとっては代えがたい大事な命です。軍の統制下とはいえ、ひどい命の扱い方をしたものです。二度とこのような人命軽視の無いように及ばずながら努力して参りましょう。

●男性(東京都) 東京新聞を見て

当年88才になります。中学は丁度戦中で学業は3年まで、4〜5年は勤労働員で防毒面をつくる工場で働きました。

父が戦前からタンカー会社を運営しており、戦中はタンカー全船や小型の機帆船1隻を残し全船が犠牲になったと聞いています。逃げ場のない海上で強力な援護も期待できず、物量を誇る米軍の攻撃の犠牲になられた船員の皆様(戦死率は軍より多かった由ですが)の想いを察する時、胸が塞り、慰労の言葉もありません。

謹んで余り世間に知れずに黙々と輸送という地味な仕事に一生を捧げられた船員の皆様のせめてものご冥福をお祈りする次第です。

●男性 神奈川新聞を見て

非常な感銘を受けました。すべての絵画は正に迫真の描写であって、攻撃された船舶の悲惨な最後に涙を禁じえませんでした。

殆ど無防備な徴用船に対して敵の攻撃は思いのままであり我が国の損害はこれらの事実からも莫大なものでした。

戦況が不利になり、敗戦が明白になってくるのにもかかわらず、この様な戦争を継続した当時の最高戦争指導者たちの無能、無責任には怒り心頭に達します。

否応なく当時の誤った国策に協力させられて犠牲になられた船員の方々の事は殆ど一般国民には知らされていません。貴顕彰会の活動には深い敬意を表しますが、もっと多くのマスメディアが貴会の活動に注目し評価しこれを広報すべきであると思います。

●男性(東京都) 顕彰会の案内で

私自身、昭19・3(パラオにて)敵機動部隊、昭19・11(マニラ南海域にて)敵潜水艦の攻撃に合い沈没の憂き目に逢っています。本展を拝見して身につまされるもの多々ありました。改めて戦争に走った軍幹部の無謀さを痛感させられました。

だれでも知っている筈、それでも、今、世界の何処かで戦争をしている、何故か？

人類の「業」というものを感じる。

●女性(茅ヶ崎市) テレビを見て

絵を見ただけで苦悶が感じられ、さぞかしお国の為とはいえ最後を向える恐しさ……。

私も戦闘機の下、空襲を逃げまどつたのでむらむらと思ひ出す。

戦争は駄目と云う事をもっとスマホ世代に伝えた方が良い。

●男性 中央図書館でポスター見て

私の友人も台湾海峡で19年暮れか20年初頭か記憶定かでない、魚雷で攻撃を受け沈没。想像するに機関員の彼は破損した蒸気機関から噴出する蒸気と熱気で視界が見えず昇降タラップも傾いた船体からの脱出不能：無念であったと思う。本展を見て悪夢を見るよう、友の冥福を祈る。



アンケートに協力する
来場者の皆さん

哀惜の海
 安らかにねむれわが友よ
 第45回戦没・殉職船員追悼式

天皇皇后両陛下のご臨席を賜り挙行了した「第45回戦没・殉職船員追悼式」がDVDになりました。今回の式典をはじめ追悼式の歩みなど、次の内容で構成されています。

- 参列した遺族・元船員の声
- 追悼式の歩み
- 第45回戦没・殉職船員追悼式

DVD完成

DVD「哀惜の海」(約25分)は晴天に恵まれ、鮮明で臨場感あふれる作品になりました。ご希望の方に頒布いたします。

- 1枚1400円(送料込)
- 「郵便振込口座番号00180-4-31985 日本殉職船員顕彰会」あてお振り込みください。DVDの発送は1月末、2月末、3月末の3回ですので、月中に振り込みされても各月末まで送付できません。お待ちいただくことをご了承ください。詳細、お問合せは、03(3234)0662へ



佐々木涼平さん



後藤祐希さん



藤田信輔さん



亀山隆太郎さん



樋口美奈子さん



藤来靖矩さん

●女性 神奈川新聞を見て
 何のための戦争だったか今までは、詳しいことは解らなかつたが、今日のDVDを見て最初から負けたことが分かってながら始めた戦争だつたことがはつきりした。自分で考える力が絶対に必要。人任せにしない。いかに戦時中の報道はでたらめだつたのか。人の命の軽さ、無駄な戦争だつたことか。悔しさ、憤りを覚える。絶対に戦争はしてはいけない。

●男性 神奈川新聞を見て
 この企画展は大変良かった。民間の船舶が太平洋戦争でこんなに徴用され、大勢の乗組員が犠牲になつたことは初めて知つた。直接戦争に参



船員OBの山下義韶さん

加しなかつたが、少国民として戦時を過ごした私にとって衝撃的なことである。

記録画展でお手伝いいただいた
東京海洋大学 海事普及会の皆さん

海事普及会は、昭和37年に創立された東京海洋大学(旧東京商船大学)にしかない独特の課外活動団体(部活やサークルのこと)です。創立当時の活動は、日本国内だけではなく、アジア(韓国)やヨーロッパ(ドイツ)なども大使館を通じた交流を行い、国際的な活動が行われていました。日本船長協会の協力により、海事普及会の活動及び活動の発展が行われてきたようです。現在では、海や船に関するオリエンテーションや、手旗信号、ロープワークなどを通して、皆さんに海や船のこともっとよく知ってもらうことをメインに活動しています。主な活動は、地域のイベントの参加や、夏休みに地方の学校をまわって行う巡回活動です。また、学園祭では、プラネタリウムの上映を行っております。

海事普及会ホームページより(抜粋)

戦没船員の功績等の調査 事例紹介

本会の事業の一つに戦没船員の功績等の調査があります。先の大戦において戦時徴用船で輸送業務にあたり、尊い命を犠牲にされた戦没船員は6万余人。横須賀市の神奈川県立観音崎公園にある「戦没船員の碑」に、浄書した名簿を奉安し毎年5月中旬の追悼式典で、戦没・殉職船員の慰霊を行っています。昨年の追悼式は、終戦70年、45回目の節目の記念式典として、戦没・殉職船員の御霊の鎮魂とご遺族の長年の労苦に応えるため、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り6月10日に執り行いました。

この追悼式が報道機関に大きく取り上げられたことから、ご遺族から、テレビ、新聞を見たが、父・兄・弟・おじは「戦没船員の碑」に奉安されているかどうか、との問合せが多数寄せられています。

本会は、こうしたご遺族の方々からの問い合わせにお応えし、調査情報の提供を日常の業務として行っています。その中から本号でも事例のいくつかを紹介いたします。

■男性（東京都町田市）

6月11日、テレビのニュースで第45回追悼式の様子を見た。父がアリユーシヤンで戦没しているが、観音崎に建立されている「戦没船員の碑」に奉安されているかどうか調べてほしい。（電話）

【回答】

お父様は、当会の戦没船員データに登録され、横須賀市の観音崎公園にあります。「戦没船員の碑」に、浄書した名簿が奉安されています。

お父様が、乗船されていたA丸は昭和19年3月2日、ウルップ島近くで米潜水艦の魚雷攻撃で撃沈され、乗組員44名全員が戦没されています。

A丸の資料を送付します。

■「お礼のお手紙」

このたびは、亡父の戦没死に関することでお手数をお煩わせることになりました。小生にとつては、決して大袈裟なことではなく、存在証明に關わることで、心の奥底にあった事柄であるだけに、貴会を介して、改めての父の存在、ひいては私自身の存在確認の意味で極めて大きなインパクトを与えるものになりました。これまでのもやもやとした霧が一気に晴れ渡るようで、貴会の労苦に対して、感謝の念で一杯です。改めてありがとうございます。

一応、現在の所感をとりあえずまとめてみたものがありますので、ご迷惑を承知のうえで、送らせていただきます。

今後とも何かとご迷惑をおかけするかと思いますが、何卒よろしくお願ひ致します。

皆様方にはくれぐれもご自愛いただくようお願い致します。

■男性（神奈川県横浜市）

記録画展に訪れた、Wさんから伯父がM社のM丸で戦没しているが調べてほしいと要請があった。

調べたところ、戦没船員データにお名前が無かったので、後日改めて調べ連絡することとした。

【回答】

当会の戦没船員データ調べたところお名前の漢字が間違えて登録されていることが判明いたしました。深くお詫び申し上げます。

また、M社の殉難・殉職者名簿を調べた結果、戦没された船はM丸ではなくK丸で戦没されています。次年（平成28年）に、お名前をあらためて浄書し「戦没船員の碑」に奉安いたします。

■「お礼のお手紙」

兄の調査をお願いした者の父でございます。お忙しい中詳しく調査して頂き、誠にありがとうございます。

兄の戦死の状況が70年ぶりに詳しく初めてわかりました。乗船していた船の名前も間違っていて記憶していたようです。船名や戦没日などもこの度初めて知ることができました。

私は兄が戦死したとの通知が届いたときは、当時満5歳でした。父母や兄たちが通知を見ながら涙を流していたのを、鮮明に覚えています。ただ、私は兄が死んだと教えられても、悲しい感情はなく皆の悲しむ姿をただそばで見ているだけでした。満5歳の年齢は肉親の死に対して、何の感情も覚えない年齢であったようです。

ところで、私の出身地は長崎県南高木郡南串山村です。（現在は雲仙市）当時隣町に加津佐町、口之津町があり、港もあって船員さんの多い町と聞いておりました。また、口之津町には国立海員学校もあり、私の中学校の同級生も同学校で学び、船員になった者もいたように記憶しています。従って地域がそのような環境にあったので、私の兄も知り合いの方の勧めで若くして船員になったように聞いております。

今回いただきました兄の情報は、長崎に帰省した折、数名存命の兄たちに知らせてあげたいと思います。本当の事が分かって皆大変喜ぶと思えます。

靖國神社にも何回かお参りしたことはありますが、多分合祀されているだろうとの想像でお参りしてました。

今回合祀されていることがはっきりいたしましたので、いざれお参りに行きたいと思っております。

観音崎公園 戦没船員の碑

海の日清掃・献花式 横須賀海洋少年団

昨年7月19日、横須賀海洋少年団「海の日」行事として恒例の「戦没船員の碑」清掃と献花式が行われた。強い日差しが照りつける猛暑の中、観音崎公園に集まったのは、小1から高2までの横須賀海洋少年団と大和海洋少年団の団員10人と保護者、指導者ら約30人。これに顕彰会と海事関係者が加わって、汗だくになりながら1時間余り清掃した。辺りが清められると「戦没船員の碑」に全員で黙とうを捧げ、一人ずつ白菊を献花した。

横須賀海洋少年団には、海上自衛隊横須賀地方総監部、横須賀土木事務所とともに、第1回追悼式からご支援・ご協力をいただいている。団員から活動などについて、話を聞いた。



「戦没船員の碑」と周辺を清掃した後、献花式のセレモニーで整列する海洋少年団の皆さん



■益原 大和くん



■吉川 諒くん

きです。海洋少年団の活動は日常生活にも役立ちます。海の日清掃は何回も参加しているので、今年が何回目か覚えていません。

中1 海洋少年団では、さまざまな経験が出来るのでうれしいです。特に一人乗りのカヤックが好

小2 海洋少年団で一番好きな活動は手旗です。



木陰で一休み

3回目です。今日は、全部のゴミを集めることを目標に掃除します。



■荒川 将一くん

中1 好きな活動は手旗です。海洋少年団に入団してから4〜5年がたち、海の日清掃は今回で



■長島 崇瑛くん

小4 海洋少年団に参加して4年ぐらいたちました。少年団に参加したことで、友達がたくさんでき、遊ぶのが楽しいです。今日はお掃除頑張ります。



■大園 菜月さん

の活動では、結索が一番好きです。珍しい体験ができるので、海洋少年団に所属して良かったと思っています。

高2 海洋少年団に入団して8年目で、海の日清掃に参加するのは2回目です。



■長島 聖瑛くん

プでの結索が一番得意です。今日はごみをいっぱい集めて碑の回りをきれいにします。

小4 海洋少年団に入団して4年目です。大会でロープ競技や手旗を行うのが好きです。ロー



私もお手伝い

■益原 出帆くん



小4
1年生から海洋少年団に所属しているので今年で4年目です。海上訓練のシーカヤックやカ

ヌーが好きです。

海洋少年団の活動で役に立ったのは結索です。友達のかつらのひもがほどこけてしまったときに、結索で習ったことを生かして結んであげられました。海の日清掃の参加も4回目です。枯葉やごみになるべくたくさん集めるのが今日の目標です。

■加藤 麗来さん



中2

一番好きな活動はシーカヤックです。漕ぎ始めはオールがずつしりと重く漕ぐのが大変ですが、しばらくするとカヤックが水面を滑るようにスピードに乗り、オールが軽くなります。そのスピードに乗る瞬間が好きです。体を動かすことができるので海洋少年団の活動は楽しいです。海の日清掃には毎年参加して慣れてきた分最近では気が緩んでしまっていたので、今日はちゃんと最後までやりきりたいです。

ご協力
ありがとうございました

横須賀海洋少年団「海の日」行事、「戦没船員の碑」清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品を今回もたくさんご提供いただきました。子供たちは大喜びで「ありがとうございます」と声高らかにお礼を述べていました。ご提供いただいた会社、海事団体は次のとおりです。(順不同) ご協力ありがとうございました。

日本郵船・商船三井・川崎汽船・日本船主協会・大日本水産会・日本内航海運組合総連合会・日本海事広報協会・日本水路協会・日本中小型造船協会・日本倉庫協会・全日本海員組合・全日本海員福祉センター



提供されたグッズを手に、皆で記念写真

殉職船員遺児へ
援護金を支給

当会の事業に商船等で、殉職された船員の遺児に返還義務のない援護金を給付する制度があります。支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。支給期間は、遺児が義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

なお、漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会が援護事業を行っておりますので、お問い合わせください。

ご遺族からのお便り

■大竹 初美さん (三重県)

いつもお世話になっております。夏休みが終わり、早、一ヶ月が過ぎ、子供たちは毎日元気に通学しています。

長女は、自動車学校に通い始めました。が、車に乗るのが「怖い」と言っています。

次女は、受験に向かって日々勉強に(遊びにも)励んでいます。

■阿部 悦子さん (宮城県)

日々ありがとうございます。夏休みも終わり、進路が就職から専門学校へ変更になったり、いろいろ

ろ変化の多いこの頃です。残りの時間は検定資格を取ったり頑張っております。朝晩寒暖の差が激しくなってきましたので、お互い体調にはお気を付け下さい。

返還義務のない
遺児援護事業

昭和44年設立された戦没船員の碑建立会の事業を継承して、昭和56年当会が設立されました。設立当初の殉職船員遺族援護事業は、就職の斡旋、進学相談等の心相相談的なことしかできませんでした。漁船海難遺児育英会のような、具体的な遺族援護を、海難商船船員遺児に対しても行うべきではないか、との要望にこたえて、日本海事財団から2億円の助成をうけて、昭和59年1月、その運用益による遺児援護事業として、援護は育英に限らず、遺児出生から義務教育終了(現在は高等学校卒業)まで援護金を支給することで、外航船員遺児13人・内航船員遺児7人を対象にスタートしました。

遺児援護事業の対象遺児は、平成3年をピークに、減少しています。海難や労災事故はあってはならないことですが、遺族援護の制度を知らないために苦境におかれては大変です。個人情報保護の関係から、対象遺児の情報が取りにくい状況下にあります。船会社や業界団体の、積極的なご協力をお願いします。

皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成27年7月16日以降、平成27年11月20日までの間に、次の方々に新たに賛助会員、協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■ 賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費 110万円、◎個人賛助会費 110万円をお願ひしています。

■ 協賛会員は「個人」にお願ひしているもので、年会費は103千円です。

新たな賛助会員の皆様 (順不同)

- 高木幹朗様 (横浜市)
- 松本アサ子様 (加古川市)

新たな協賛会員の皆様 (順不同)

- 河村涼様 (四日市市) ○岡靖晃様 (横須賀市) ○原田久世様 (上尾市)
- 紅林道也様 (藤枝市) ○首藤クニ様 (川崎市) ○渡部智一様 (横浜市)
- 守田忠様 (名取市) ○高義雄様 (川口市) ○飯田尚世様 (東京都港区)
- 馬場英津子様 (長岡市)

追悼式献花料

(順不同)

- 伊藤郁子様 (東京都大田区) ○小林義隆様 (篠山市) ○阪口勝子様 (草津市) ○川畑實恵様 (明石市) ○米山隆昭様 (東京都北区) ○長野ヨネ子様 (東京都中野区) ○横須賀市東部漁業協同組合様 (横須賀市) ○福

- 代田区) ○海友会様 (高知市)
- 森野美樹様 (牛久市)

遺族援護寄付金

- 河合八儿子様 (横浜市)

終戦記念日献花式供花料 (順不同)

- 日本内航海運組合総連合会様 (東京都千代田区) ○前川弘幸様 (横浜市) ○多胡明美様 (小金井市)

戦時徴用船の最期

大久保一郎遺作展寄付金 (順不同)

- 岡海寿会様 (福岡市) ○山下義韶様 (神奈川県中郡) ○曾根幸雄様 (横浜市) ○小松和夫様 (横浜市) ○飯田喜久三様 (東京都渋谷区) ○橋本進様 (藤沢市) ○南七郎様 (新潟県岩船郡) ○水野孝子様 (新潟県江藤政雄様 (和歌山市) ○高等商船学校二期生会様 (横浜市) ○荒谷秀治様 (横浜市) ○坂元茂昭様 (赤穂市) ○前川弘幸様 (横浜市) ○棚池さつき様 (多摩市) ○河合八儿子様 (横浜市)

※潮騒40号(前号)に、追悼式献花料をいただきました右記の方々を掲載しませんでした。

深くお詫び申し上げます。

寄付金

(順不同)

- 岡靖晃様 (横須賀市) ○飯田尚世様 (東京都港区) ○鮫島庸一様 (掛川市) ○海事振興連盟様 (東京都千

- 村上峰子様 (千葉市) ○石垣武夫様 (さいたま市) ○守田忠様 (名取市) ○竹内泰昭様 (横浜市) ○有沢美香様 (越谷市) ○神田基一郎様 (横浜市) ○渥美俊吾様 (東京都大田区) ○吉筋健二様 (横浜市) ○冲航太郎様 (横浜市) ○諸井泉様 (相模原市) ○加藤満様 (海老名市) ○勝山華子様 (北海道石狩郡) ○原田弓子様 (横須賀市) ○安藤勲様 (横浜市) ○伊藤麻里様 (茅ヶ崎市) ○村田勉様 (相模原市) ○江村俊太様 (東京都江戸川区) ○澤渡研二様 (川崎市) ○甲斐賢一郎様 (横浜市) ○伊達葉純様 (八王子市) ○森嶋重謙様 (川崎市) ○豊原東貴雄様 (横浜市) ○田村仁恵様 (君津市) ○村松美那様 (鴻巣市) ○香月丈子様 (東京都文京区) ○荒谷秀治様 (横浜市) ○平山誠一様 (東京都江東区) ○水野正洋様 (横浜市)

山縣記念財団 “2015年山縣勝見賞・特別賞受賞”

当会の戦没船員の慰霊と功績を伝える事業に対し、これらを顕彰し、日本と世界の恒久平和への誓いを新たにすることは、戦後70年にあたり意義があるとして、一般財団法人山縣記念財団の「2015年山縣勝見賞・特別賞」が、当会に贈呈された。

戦没・殉職船員名簿の作成、追悼・慰霊・遺族への援助活動や大阪商船(株)嘱託画家大久保一郎氏の絵画展の開催により戦時徴用船遭難の記録を後世に伝える事業等、当会の活動が評価された。



山縣記念財団・小林一夫理事長 (右) から表彰状を授与される 当会の理事長植村保雄 (左)